

## 学ぶとは、まねること

“学ぶ”という言葉は、昔は“まねぶ”と言いました。“まね(真似)る”という言葉と、本来は同じ言葉です。幼児は、見るもの聞くものすべてを模倣し、これを身につけていきます。

言葉の学習では、二歳半から三歳ごろにかけて、大人の話す言葉をおうむ返しにまねて言うことにより、能力を育てます。だから、この時期を“模倣期”と呼んでいます。

正に、“ふねる”ことが、“学ぶ”ことです。だから、幼児が学習できるためには、“まねる”ためのお手本を与えることが、大切です。

この時期が、言葉の学習では、最も適切で重要な時期ですから、よいお手本を与えることにお母さんは最善の努力を尽くすべきです。

これまでの時期では、少々の教育的配慮の不足も許されますし、立ち遅れも心配ありません。しかし、この時期の教育の失敗は、致命的なものになります。

テレビの CM や、アニメソングの歌詞などをすぐ覚えるのは、この時期です。できる限り、見たり聞いたりするものを選んで与えるように、注意しなければなりません。

## “くり返し”“慣れる”こと

模倣期から成熟期(三歳から四歳)にかけての幼児には、言葉の良いお手本を与えたいものです。だから言葉が正確に表現された漢字かな交じり表記の絵本つまり日本語で表記された絵本がよいのです。

さて、“学習”の学が“まねる”ことなら、習は“(慣)なれる”ことです。物事をくり返してそれに慣れるのが習うということです。だから学習は、まずお手本を“まね”て、その“まね”をくり返して“慣れる”ことです。“まねる”こと、それを“くり返す”ことで、子供の能力は育つのです。

幸い、この時期の幼児は“くり返す”ことが大好きです。これは、子供の成長のために子供に与えられた本能だと思います。同じお話を少しも飽きずにくり返し回いて、それを身につけるのです。

日本語表記の絵本をお母さんが読んでやることは、子供のこの要求によく合っています。何度でも、子供の要求に応じて、美しい発音の、正しい言葉で物語ってやってください。